

大学院医学研究院 市川智彦教授の最終講義が行われました

令和 7 年 3 月をもって退職される大学院医学研究院 市川智彦教授（泌尿器科学）の最終講義が、2 月 27 日（木）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は本学の教職員・学生、学外からの多くの来場者に加え、オンラインでも多くの方が聴講しました。

市川教授は昭和 59 年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学医学部附属病院 泌尿器科に入局。ジョーンズホプキンス大学医学部オンコロジーセンターへの留学を経て、平成 10 年に千葉大学医学部泌尿器科学の講師に就任されました。平成 16 年には教授に就任され、以来 21 年間にわたり泌尿器学の研究活動・発展に大きくご貢献されました。千葉大学医学部附属病院の副病院長を長らく務められ、平成 25 年からの 2 年間は千葉大学大学院医学研究院副研究院長を、平成 27 年からの 2 年間は千葉大学医学部副医学部長も務められました。また、平成 29 年からは臨床遺伝専門医として千葉大学医学部附属病院の遺伝子診療部部長としても活躍されています。

最終講義は、大鳥附属病院長からのご挨拶の後、演題『泌尿器科医 40 年を振り返って～疑問はいずれ明らかとなる～』について、市川教授がライフワークとされてきた男性不妊症の研究などについてお話しされました。講義終了後は、三木医学研究院長からのご挨拶、来賓の伊藤晴夫名誉教授からのご挨拶に続き、学生代表をはじめ、多くの関係者から謝辞と花束が贈呈されました。

市川教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



大鳥病院長によるご挨拶



三木研究院長によるご挨拶



最終講義の様子



学生代表による謝辞



花束贈呈